

やし!



絢爛豪華な時代絵巻

日野祭



うまみおかわたむき
馬見岡綿向神社の春の例大祭「日野祭」は、800年以上もの伝統を持つ湖東地方最大の祭です。

今年も5月2日に宵宮、3日に本祭が行われ、かみ こ しんちようしゃ神子や神調社、みこし ひきやま神輿3基と曳山12基(うち1基はひばり野へ)が出ました。両日とも晴天に恵まれ、宵宮2,000人、本祭31,000人が訪れ、神社や大通りはたくさんの観光客やカメラマンでにぎわいました。

宵宮

5月2日夕刻、ちようちん提灯に明かりを灯した曳山が、山倉の前や辻まで引き出され、まつりばやし夜遅くまで祭囃子が奏でられました。闇夜に浮かび上がる曳山と心地よい笛の音色で、町全体が幻想的な世界に…。いよいよ、明日は本祭。囃子の勢いとともにお祭気分が高まっています。



宵山スタンプラリー



やしやしッ！ ドンと



3人の「神子」と称する稚児を警護する大字上野田で組織する「神調社」という一団を総称して「芝田楽^{しばでんがく}」と呼びます。100人ほどの裱姿^{かみしも}の神調社が「日野祭」の進行を取り仕切っています。

祭礼を華やかに盛り上げるのは各町内の見事な曳山。150年以上前、日野商人が活躍していた江戸時代に作成されたものが多く、「見送り幕」や「彫刻」などの装飾は美術品としても、たいへん素晴らしいものです。

曳山に乗せる今年のだしは、「一豊と千代」「ムシキング」「モーグルの伊藤みき選手」など各町とも流行を取り入れ、工夫を凝らしたものばかりでした。

芝田楽や神輿、曳山が練り歩く道中では、この日のためだけに作られた「棧敷窓^{さじきまど}」が開けられ、祭の行列を眺めようと窓から人が顔をのぞかせていました。

本祭



日野祭に合わせ、「JRふれあいハイキング・絢爛豪華 日野祭と日野の町並み散策」や「日野まつり・自転車さんぽ」などのツアーが開催され、県内外からたくさんの方が参加。蒲生氏郷^{がもうじさと}公ゆかりの地・松阪市と会津若松市からのお客様もいらっしゃいました。

この日、日野観光ボランティアガイド協会の皆さんは大忙し。訪れた方に綿向神社や祭礼の流れを説明されるなど、大活躍の日でした。また、旧正野薬店^{しょうのやくてん}（観光協会事務所）付近では、恒例の「棧敷窓アート」が開催。町内工芸作家たちの作品が展示・販売され、多くの方が立ち寄っておられました。

